



ゆくさ、おさいじゃした！ 桜島



【スローガン】国民と広く連帯し、患者・地域住民と医療・福祉労働者の人権・生命の尊厳を守ろう

第4号

2015年6月13日

【発行】

実行委員会事務局

5分科会



ものか成りいよつ在か
紹在、しで中うい宅ら慶
介宅心た支でにて療は応
さ療疾経援「ケ報養小義
れ養患経で病ア告支児塾
ま支の験き院マが援科大
し援小るのネあの外学
たを児語看中がり取来病
し患ら護で存「りに院
た者れト在介組おの
事さたをしし護みけ
例んは養タなのるに組

第5分科会（地域連携）

医療研2日目は17の
テーマ・課題で分科会討
論が行われました。取材班
が分科会を訪問した時点
での状況をレポートします。

分科会
レポート

1～4分科会は5号に
掲載します

切放題でる師
つつはがの「
たて一な上研
医お目い手修
療けのくコ
行な前広い
為にいげ
を職に
行種いる
うでるの
危思人は
険いを問けい護

いるつうが護
ま発いち交労医
し言て「わ働療
たがそ特さの政
冒の定め現策
頭危行て状に
か険為いに左
ら性研まつ右
相を修すいさ
次指制。てれ
い摘度こ意
ですにの見

第7分科会（医療政策）



6分科会

（のれいべ賃でが「なへトの場ス題」
（新親！。！金「合長いのの中のタや人
湯睦シシシ体同併野成指区で平！悩づ加
にヨのヨ系じし「長導別「均トみく者
な頑シ中んが仕て「のやが仕年しをりが
ど張企でが全事独「さ「あ事齡て出「それ
発つな労が違し化と方だまブ2ま合つぞ
にてど組みいてに市がかいラ0すいれ
発いででか「いな課まなイ代「なて職
言る職レねモてる病題り職べに「が「場
員くなチも中院「の員！な職ら課の

第6分科会（職場作り）

しつをしをよ者このなる受は経し医利
い取たまる虐つ報活委「医て療を障
てり。も規待た告動員て障療いとまが
も組統る定の施「にに会「が「ま福もい
む合必や事設過取が院い「す祉り児
報静・要障例に去組置に虐「全在心障
告岡廃性がかお「にんさ多待「医りにが
が富止がいらけ「る全でれ職防支芳方寄い
さ病対らの法障国い「種止部静をり者
れ院運れ権律がでる多に法か岡討添の
まに動ま利ににい起と彩よをら神議う権

第8分科会（障がい児医療）



8分科会



7分科会

などにはが
どのし「あ
の労た特「
声使「定
が協強行
出定制為
さ締をを
れ結さ診
てがせ療
ま急なの
す務い補
「な助正

もかかわらず、国も医
状が報告されているに
島県では県民健康調査
を行い、結果大きな異
所見がありました。福
28名に何らかの異常
20歳以下の動を
行い、結果大きな異
島県では県民健康調査
を行い、結果大きな異
所見がありました。福
28名に何らかの異常
20歳以下の動を
行い、結果大きな異

島県では県民健康調査
を行い、結果大きな異
所見がありました。福
28名に何らかの異常
20歳以下の動を
行い、結果大きな異
島県では県民健康調査
を行い、結果大きな異
所見がありました。福
28名に何らかの異常
20歳以下の動を
行い、結果大きな異

東京電力福島第一原
発事故から4年3か月
過ぎ、今でも毎日多く
の放射性物質が大気中
にも海水中にも放出さ
れています。原発事故
以降、関東で生活され
ていて鹿児島県内に避
難されてこられた13
6名の健診を行ってき
ました。大人56名中
28名に血液検査やエ
コー検査で異常を認め
ました。20歳以下の
子供80名中35%の
28名に何らかの異常
所見がありました。福
島県では県民健康調査
を行い、結果大きな異
状が報告されているに
もかかわらず、国も医

東京電力福島第一原
発事故から4年3か月
過ぎ、今でも毎日多く
の放射性物質が大気中
にも海水中にも放出さ
れています。原発事故
以降、関東で生活され
ていて鹿児島県内に避
難されてこられた13
6名の健診を行ってき
ました。大人56名中
28名に血液検査やエ
コー検査で異常を認め
ました。20歳以下の
子供80名中35%の
28名に何らかの異常
所見がありました。福
島県では県民健康調査
を行い、結果大きな異
状が報告されているに
もかかわらず、国も医



青山浩一先生
特別報告
【要旨】

いま、子どもたちの
いのちみつめる…
東京電力福島第一原発事故
の現状と健康障がい



第9分科会（精神医療）

「現在の精神医療政策を継続するの、精神医療を改革し、今日の社会に積極的に対応できるように切り換えるのか」、が問われている中で30名が参加しました。入院中心の精神医療を転換し患者の人権を守る取り組みや、就労支援など地域を巻き込んでの取り組みが報告されました。



9分科会

第10分科会（リハビリ）

リハビリの分科会では、回復期での他職種との連携で長期的なケアを実践してきた取り組み、介護報酬改定での現場の実態、リハスタッフとして終末期患者とその家族の「最期」への思いを尊重した取り組みなどが報告されました。



10分科会

第11分科会（臨床検査）

「患者のための臨床検査」をテーマに、15名の参加者で、「臨床検査技師法改正について」の情報交換、違法な宿日直、人員不足の中での年休取得向上など労働条件改善の取り組み、ランチ問題、後継者対策など、職場の実態が報告されました。



11分科会

第12分科会（給食改善）

「給食改善、治療食・介護職の充実をめざして」をテーマに30名が参加し、本のレポート報告がありました。入院時食事療養費の自己負担増反対に向けた国会議員要請行動の取り組み、安心して食べられる地産の取り組みや介護食・嚥下調整の取り組みが報告されました。



12分科会

第13分科会（安全衛生）

「職場の安全衛生」をテーマに、20名の参加者で、「職場の安全衛生」に関する情報交換、労働安全衛生法の改正について、労働安全衛生の取り組みが報告されました。



13分科会

第14分科会（施設介護）

「施設介護」をテーマに、20名の参加者で、「施設介護」に関する情報交換、施設介護の取り組みが報告されました。



14分科会

第15分科会（在宅介護）

「在宅介護」をテーマに、20名の参加者で、「在宅介護」に関する情報交換、在宅介護の取り組みが報告されました。



15分科会

第16分科会（放射線・原発）

「福島第一原発と周辺地域の現状」の報告では放射能、放射線や被ばくについてのわかりやすい解説から、原発事故の当日に福島原発で起こっていたこと、原子炉内の様子、放射性物質の飛散状況が詳細に説明され、今なお解決のめどがたっていない原発事故の実態、そして原発の危険性についての発表がされました。



16分科会

第17分科会（薬と社会）

「すべての薬型、C型肝炎患者の救済」をスローガンに全国ネットワークの確立・要請行動、「国への意見書」の全都道府県議会での採択の取り組み、全国5万筆の国会請願署名の取り組みなどがB型肝炎肝炎救済全国センターより報告されました。



17分科会

【題字写真】砂むし温泉

指宿の砂むし温泉は世界的にも珍しい温泉です。暖かい砂の上に寝転び、砂をかけられると、砂の重さと温泉の効果で体中の老廃物が大量の汗とともに流れ出ます。300年も昔から愛されています。

